

令和3年12月23日
第八管区海上保安本部
海上保安学校

第八管区海上保安本部・海上保安学校 合同定例記者懇談会

1 日時

令和3年12月23日（木）午後2時00分から

2 場所

舞鶴港湾合同庁舎2階 第1会議室

3 発表事項

<第八管区海上保安本部>

- ・令和3年「8管トピックスTOP10」決定！
～アンケートにご協力いただきありがとうございました～
- ・1月18日は「118番の日」です
～118番は海上保安庁の緊急通報用電話番号です～
- ・令和3年における海難発生状況（12月20日現在の速報値）
～ミニボートの船舶海難が増加、遊泳中の人身海難が大きく減少～

<海上保安学校>

- ・令和3年海上保安学校10大ニュース（連絡事項）

4 業務説明

<第八管区海上保安本部 総務部>

- ・海上保安庁の制服について

令和4年1月業務予定

日	曜	業務内容	備考
継続			
1	土		上旬
2	日		
3	月		
4	火		
5	水		
6	木		
7	金		
8	土		
9	日		
10	月		
11	火		中旬
12	水		
13	木		
14	金		
15	土	商業施設での「118番」街頭周知活動<第八管区海上保安本部等>	
16	日		
17	月		
18	火	118番の日	
19	水		
20	木		
21	金		下旬
22	土		
23	日		
24	月		
25	火		
26	水		
27	木	第八管区海上保安本部・海上保安学校合同定例記者懇談会	
28	金		
29	土		
30	日		
31	月		



【問合せ先】

第八管区海上保安本部
広報・地域連携室 今出・松田
TEL 0773-76-4100

令和3年12月23日
第八管区海上保安本部

令和3年「8管トピックスTOP10」決定！

～アンケートにご協力いただきありがとうございました～

第八管区海上保安本部では、この一年間に管内で起きた主な出来事（8管トピックス）の中から印象に残っているものについて、一般の皆様及び管内職員を対象にアンケート調査を行った結果、次の上位10項目が『8管トピックスTOP10』に決定しましたので、お知らせいたします。

令和3年「8管トピックスTOP10」（総合結果）

順位	トピックス	得票数
1	島根県隠岐の島北方沖で北朝鮮貨物船が浸水	255
2	海上保安官が犬命救助	219
3	闇夜の中、笛の音で要救助者を発見、救助	176
4	1隻で2時間の間に3件の海難救助	160
5	島根県浜田沖で巻き網漁船が転覆	159
6	2020年東京オリンピック競技大会聖火リレー警戒	149
7	西郷岬灯台 初点灯から100周年	128
8	島根県隠岐の島北方海域で韓国漁船が転覆	127
9	夫婦で永年勤続表彰（30年）を受賞	125
10	不審船対処に係る海上自衛隊との共同対処訓練を実施	113

- ・ アンケート回答者数566名（一般69名、職員497名）
- ・ 期間 令和3年12月1日（水）～12月10日（金）

【回答者別アンケート結果】

令和3年「8管トピックスTOP10」(一般結果)

順位	トピックス	得票数
1	海上保安官が犬命救助	36
2	1隻で2時間の間に3件の海難救助	28
3	不審船対処に係る海上自衛隊との共同対処訓練を実施	26
3	2020年東京オリンピック競技大会聖火リレー警戒	26
5	闇夜の中、笛の音で要救助者を発見、救助	28
6	日韓合同捜索救助訓練を実施	18
7	島根県隠岐の島北方沖で北朝鮮貨物船が浸水	16
8	島根県浜田沖で巻き網漁船が転覆	15
8	西郷岬灯台 初点灯から100周年	15
10	地元中学生に対する職場体験学習について	14

(得票数が同数の場合は、発生/実施日時順としています。)

令和3年「8管トピックスTOP10」(職員結果)

順位	トピックス	得票数
1	島根県隠岐の島北方沖で北朝鮮貨物船が浸水	239
2	海上保安官が犬命救助	183
3	闇夜の中、笛の音で要救助者を発見、救助	152
4	島根県浜田沖で巻き網漁船が転覆	144
5	1隻で2時間の間に3件の海難救助	132
6	2020年東京オリンピック競技大会聖火リレー警戒	123
7	島根県隠岐の島北方海域で韓国漁船が転覆	114
8	西郷岬灯台 初点灯から100周年	113
9	夫婦で永年勤続表彰(30年)を受賞	112
10	境港内でフローティングドックが座礁	105

令和3年「8管トピックスTOP10」

8管トピックスTOP10が決まりました！アンケートにご協力いただきありがとうございました。

1位 島根県隠岐の島北方沖で北朝鮮貨物船が浸水

令和3年5月21日、隠岐の島北方沖約25海里を航行中の北朝鮮貨物船から、第八管区海上保安本部あて「貨物倉庫が浸水しているため救助を要請する」旨の無線連絡がありました。

傾きが大きくなった貨物船から、乗組員は全員救命艇に乗船し、離船。翌日貨物船は沈没しました。



2位 海上保安官が犬命救助

令和3年10月11日、宮津海上保安署がまさに関係機関との旅客船事故対策訓練を実施しようとしていたとき、老夫婦から「助けてください！犬が海に落ちた！」との救助要請を受けました。巡視艇あまかせ乗組員が海から上がれず疲れ切った柴犬を救助し、無事に飼い主に返すことができました。



3位 闇夜の中、笛の音で要救助者を発見、救助

令和3年6月27日の夜、海上で笛の音が聞こえた漁船船長が周囲を確認したところ、転覆船につかまっている男性を発見。

船長からの118通報を受けた福井海上保安署職員が、現場海域に急行し、闇夜の海に響く笛の音を確認、音をたどっていったところ、転覆船の上に乗って救助を求める男性を発見、無事救助することができました。



4位 1隻で2時間の間に3件の海難救助

令和3年5月15日朝、福井海上保安署は強風のため戻れなくなったSUP利用者を救助中、ゴムボートが帰還不能との118番通報を受け、救助したSUP利用者を乗せたまま、現場へ急行、救助を完了しました。上記2件の海難調査中、なんと3件目の118番通報が！現場へ急行し無事に救助しました。



5位 島根県浜田沖で巻き網漁船が転覆

令和3年3月8日、島根県浜田沖で巻き網漁船が転覆、沈没。乗組員11名は僚船により全員救助され、1名が救急搬送されましたが命に別条はありませんでした。



6位 2020東京オリンピック競技大会聖火リレー警戒

令和3年5月、各地で2020東京オリンピック競技大会聖火リレーがスタート。

沿岸部も聖火リレーのルートとなっており、海上からも警戒を実施。

特異事象なく、無事聖火リレーは終了しました。



7位 西郷岬灯台 初点灯から100周年

西郷岬灯台（島根県隠岐の島町所在）は、令和3年3月31日で点灯100周年を迎えました。境海上保安部交通課及び隠岐海上保安署（隠岐の島観光協会共催）では、これを記念しフォトコンテストを開催。記念写真や記念動画をYouTubeやTwitterに投稿するなどしました。



8位 島根県隠岐の島北方海域で韓国漁船が転覆

令和3年10月20日、島根県隠岐の島北方約200キロメートル沖を航行中のコンテナ船から転覆船を発見した旨の無線通報がありました。

第八管区海上保安本部は直ちに船艇・航空機を現場に急行させ、転覆船及びこれにつながれた救命いかだを確認したので、付近海域を韓国海洋警察庁等と捜索しました。

21日、付近を捜索している韓国漁船が2名を発見救助、韓国海洋警察庁の潜水士が転覆船から心臓停止の1名発見、30日水産庁漁業取締船が転覆船の船名が記載されたライフジャケットを着用した遺体1名を発見しました。



9位 夫婦で永年勤続表彰(30年)を受賞

浜田海上保安部所属の海上保安官夫婦が、永年勤続表彰(30年)を受賞しました。

永年勤続表彰(20年)も夫婦揃って浜田海上保安部で受賞しています。



10位 不審船対処に係る海上自衛隊との共同対処訓練を実施

令和3年4月6日、9月24日、第八管区海上保安本部は若狭湾において不審船に対応するための訓練を海上自衛隊と共同で行いました。

同訓練では、臨海部の重要施設に向かう不審船を想定した演練を行い、共同対処能力の向上を図りました。





問合せ先：第八管区海上保安本部
 広報・地域連携室 今出・松田
 TEL 0773-76-4100
 (内線 2111・2117)

令和3年12月23日
 第八管区海上保安本部

1月18日は「118番の日」です

～118番は海上保安庁の緊急通報用電話番号です～

海上保安庁では、平成23年から毎年1月18日を「118番の日」とし、「118番」の重要性をより一層、多くの方に理解してもらうため、全国で周知活動を行ってきました。

「118番の日」は、これまで118番通報の大切さとその適切な利用をアピールし、全庁を挙げて周知活動を実施してきたところです。

第八管区海上保安本部では、皆様への更なる浸透を目指し、引き続き周知活動を行ってまいります。

1 八管本部における「118番」入電実績（年間）

通報総件数は、14,016件のうち有効通報件数は361件でした。

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3(※2)
通報総件数	16708	20563	17053	19901	18178	18965	21048	18038	15655	14016
有効通報件数(※1)	282	289	297	296	321	356	299	305	335	361

(※1) 有効通報件数・無言電話、間違い電話等を除いた件数

(※2) R3.1.1～R3.12.15の件数（速報値）

■自己救命策3つの基本
 ～思わぬ事故から命を守るために必要なこと～

1 ライフジャケット 常時着用
 保守・点検されたものを正しく着用してね。

2 携帯電話等 連絡手段の確保
 防水バックに入れて落とさないようにね。

3 海の緊急通報用 電話番号118番
 GPS機能を「ON」にすることで迅速な救助につながります。

NET118

もしもの場合に備え、家族や友人に「目的地や現在位置(釣場や港・海岸・海域名)」「帰宅時間」を伝えておきましょう。

2 八管区内における「118番」通報対応事例

(1) 漁船乗組員負傷

令和3年6月17日午前11時20分頃、島根県隠岐郡隠岐の島町北方にて漁船乗組員が作業中に指を負傷したため、ヘリコプターでの救急搬送を願う旨の118番通報があった。

八管本部から美保航空基地に対し回転翼機の発動を指示するとともに、隠岐海上保安署は巡視船さんべを発動、巡視船さんべ監視警戒のもと、回転翼機により負傷者を吊り上げ救助し、午後2時過ぎ松江赤十字病院へ搬送完了した。



負傷者吊上げ時の状況

(2) カヌー未帰還情報

令和3年10月10日午後2時ころ、「ボートが岩場に乗り揚げ身動きが取れなくなった、岩場に上陸して救助を待っている」と118番通報があった。

八管本部からの連絡を受けた宮津海上保安署は巡視艇あまかぜを急行させ、118番位置情報及び通報内容を基に事故船舶を捜索し、京都府与謝郡伊根町沖の岩場にて事故船舶を発見、通報者を含む2名を救助し、事故船舶を岩場から引出した後曳航、午後4時20分泊漁港に曳航完了した。



事故船舶の状況

【参考】

1. 「118番」「118番の日」とは

海上保安庁緊急通報用電話番号「118番」は、海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等の事犯に迅速かつ的確に対応するために、平成12年5月1日から導入されたものです。

また、海上保安庁では平成23年から毎年1月18日を「118番の日」とし、「118番」の重要性をより一層、多くの方々に理解してもらうため、全国で周知活動を行っています。

2. 緊急通報位置情報通知システム

平成19年4月からは、「118番」通報時に音声通報と併せて位置情報通知を受信し、電子地図上に表示させて通報者の所在位置を直ちに把握する「緊急通報位置情報通知システム」を導入しています。

海難や犯罪などの緊急情報が一般電話で通報された場合、位置情報通知システムが機能せず、場所の特定に時間を要することから、緊急時の通報については「118番」による通報をお願いします。

※位置情報の通知には携帯電話のGPS機能が「ON」であることが必要です。

3. NET118

聴覚や発話に障がいを持つ方を対象に、スマートフォンなどを使用した入力操作により、海上保安庁への緊急時の通報が可能となる「NET118」というサービスを令和元年11月1日から運用開始しています。

4. 自己救命策の3つの基本

海での痛ましい事故を起こさないためには、①ライフジャケットの常時着用②防水パック入り携帯電話等の連絡手段の確保③118番の活用の自己救命策3つの基本が重要です。

海上保安庁では、海を利用する人が自らの命を守ることにつながるこれらの方策について、様々な手段を通じて周知・啓発活動を行っています。

■自己救命策3つの基本
～思わぬ事故から 命を守るために 必要なこと～





問合せ先：第八管区海上保安本部交通部
交通部安全対策課長 竹内 正一
TEL 0773-76-4100（内線 2640）

令和3年12月23日
第八管区海上保安本部

令和3年における海難発生状況(12月20日現在の速報値) ～ミニボートの船舶海難が増加、遊泳中の人身海難が大きく減少～

第八管区海上保安本部管内では、船舶海難は172隻（前年比+1隻）で、うち約7割がプレジャーボートによるものであった。特徴としてミニボートによる海難が増加した。

また、人身海難は168人（前年比+13人）で約半数がマリンレジャーに伴う海浜事故であったが、遊泳中の海難は昨年に比べ大きく減少した。

1 船舶海難の発生状況

(1) 船舶海難隻数

- 船舶海難隻数：172隻、死者・行方不明者数：4人
（船舶海難内訳：船舶事故隻数120隻、インシデント^{*1}52隻）

(2) 船舶海難の特徴

- 船種別では、プレジャーボート^{*2}の海難が最も多く、5月から7月に多く発生
- 事故種類別では、4割弱が機関故障
- 船長の居住地別（判明のみ）では、管区外居住者が約6割を占め、関西地方が最も多い
- ミニボート^{*3}の海難は23隻で前年比9隻増加
要因としてコロナ禍における三密回避もあり、ミニボートで手軽に釣りを楽しむ人が増加したことが要因と考えられる

2 人身海難の発生状況

(1) 人身海難人数

- 人身海難人数：168人、死者・行方不明者数：50人
（人身海難内訳：人身事故79人、その他の人身に係るトラブル^{*4}89人）

(2) 人身海難の特徴

- マリンレジャーに伴う海浜事故^{*5}は、遊泳中や釣り中のものが多い
（遊泳中約4割弱、釣り中約5割弱）
- 事故者の居住地別では、遊泳中の約8割、釣り中の約7割を管区外居住者が占め、関西地方が最も多い
- 遊泳中の海難は27人で前年比11人減と大幅に減少
- 要因としては、昨年に比べ不開設海水浴場が減少し、管理された海域が増加したことに加え、8月の天候不良による遊泳者の減少が考えられる

- ※1:「インシデント」とは、船舶の運航に関連した損害又は具体的な危険が生じなかった海難をいう
 ※2:「プレジャーボート」とは、モーターボート(ミニボート含む)、ヨット、カヌー、水上オートバイ等をいう
 ※3:「ミニボート」とは、船体の長さが3m未満、推進器の出力が1.5KW(2.039馬力)未満の船舶をいう
 (小型船舶操縦士の免許や小型船舶検査・登録が不要)
 ※4:「その他の人身に係るトラブル」とは、死傷者が発生しなかった海難及び自殺、病気等をいう
 ※5:「マリッジジャーに伴う海浜事故」とは、遊泳中の事故や釣り中の事故等、船舶に乗船しないで活動した際に発生した事故をいう

【参考】

過去5年間における船舶海難及び人身海難の推移

		H28	H29	H30	R1	R2	R3
船舶	海難隻数(隻)	125	125	173(27)	142(18)	171(25)	172(28)
	死者・行方不明者(人)	10	0	2	3	7	4
人身	海難者数(人)	192	198	186	204	155	168
	死者・行方不明者(人)	70	82	63	60	49	50

※ 平成30年から民間救助団体による救助隻数を含む(括弧内は、民間救助団体の内数)

本値は12月20日現在の数値であり、今後変動する可能性があります

3 その他の活動

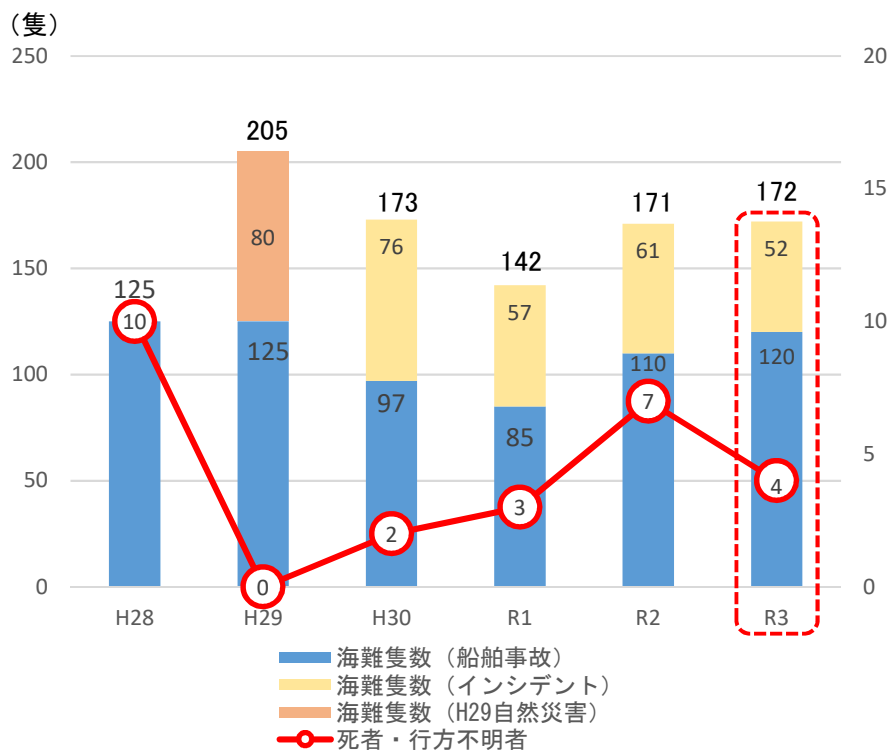
第八管区海上保安本部管内におけるマリッジジャー活動については、管区外居住者による事故が多く、同者へ向けた情報発信のため、関係先との連携を強化している。

京都市内、滋賀、奈良に所在する釣具店計5店舗について安全推進釣具店の認定に向け手続き中。

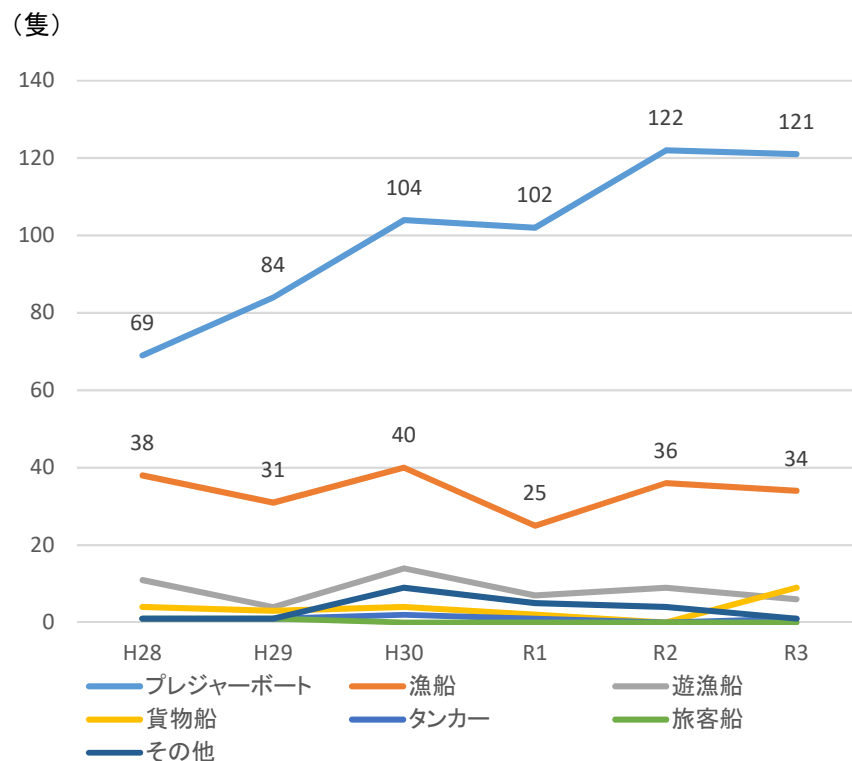
船舶海難発生状況(年別、船種別)

- 船舶海難は172隻で、内訳は船舶事故が120隻(うち民間救助機関による救助隻数11隻)、インシデントが52隻(うち民間救助機関による救助隻数17隻)であった。
- 船舶海難に伴う死者・行方不明者は4名であった。※韓国漁船転覆海難の乗船者を除く
- 船種別では、プレジャーボートが最も多く(約7割)、増加傾向となっている。

海難隻数と死者・行方不明者の推移【表1-1】



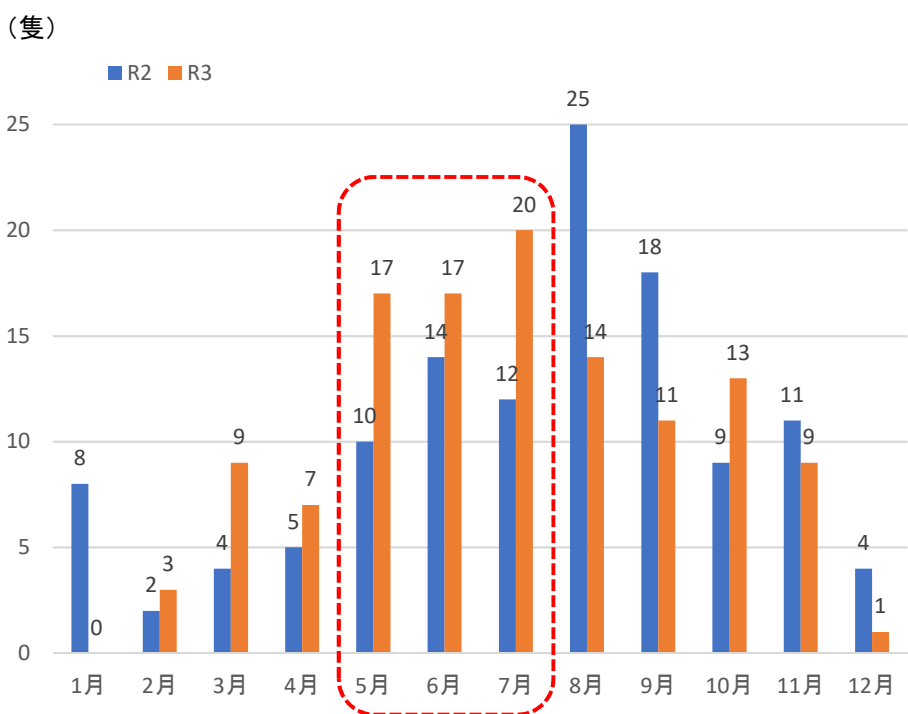
船種別海難隻数の推移【表1-2】



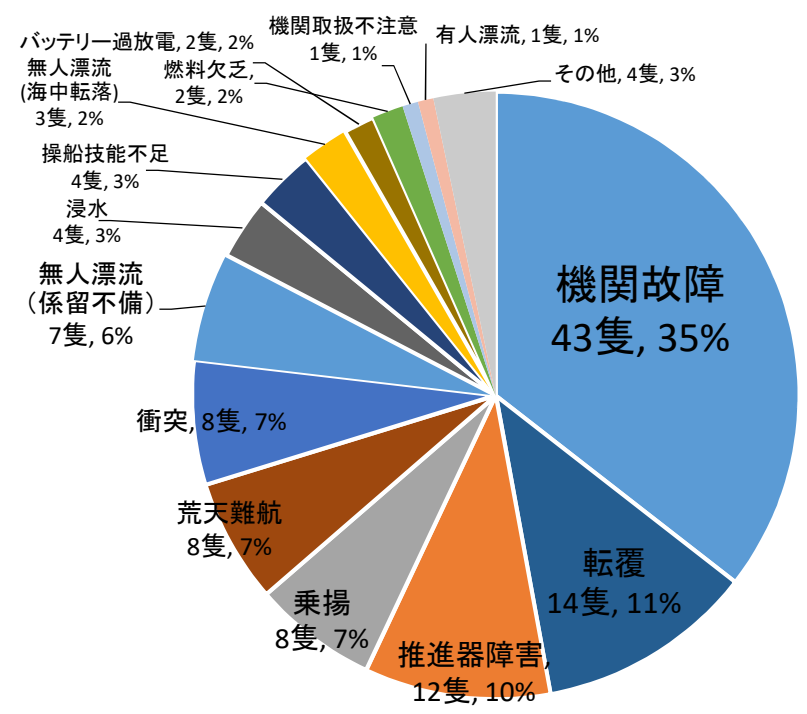
船舶海難発生状況(プレジャーボート、月別、事故種別)

- プレジャーボートによる海難の月別発生状況では、5月～7月に多く発生している。
- プレジャーボートによる海難の事故種別では、機関故障が最も多く、次いで転覆、推進器障害の順となっている。

前年比(プレジャーボート 月別海難発生状況)【表1-3】



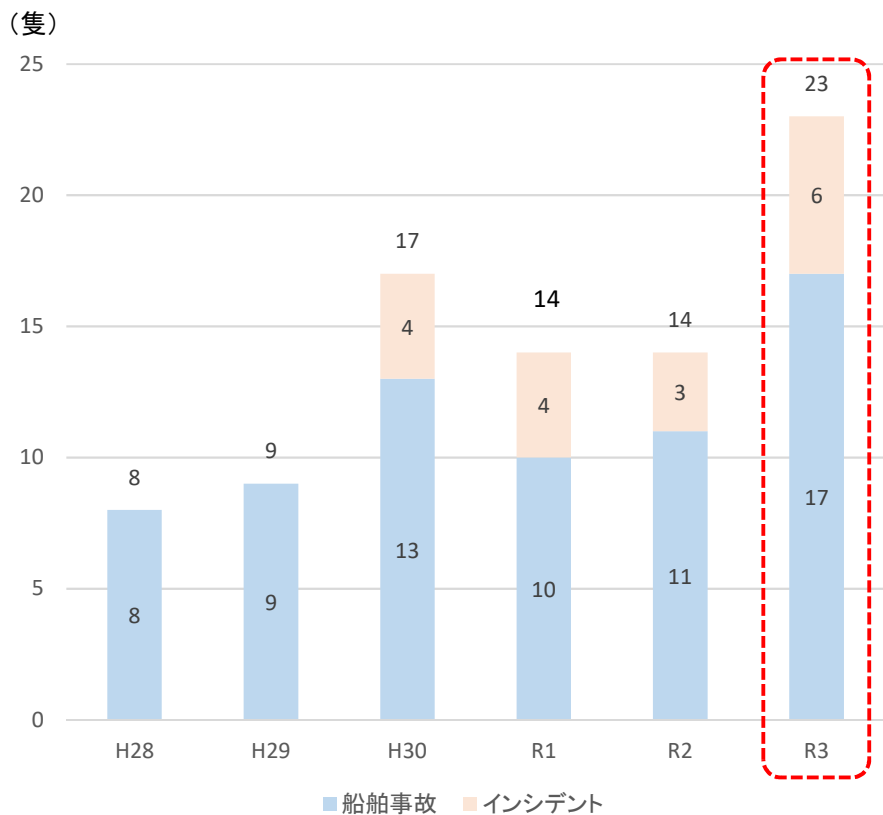
事故種別(R3プレジャーボート内訳)【表1-4】



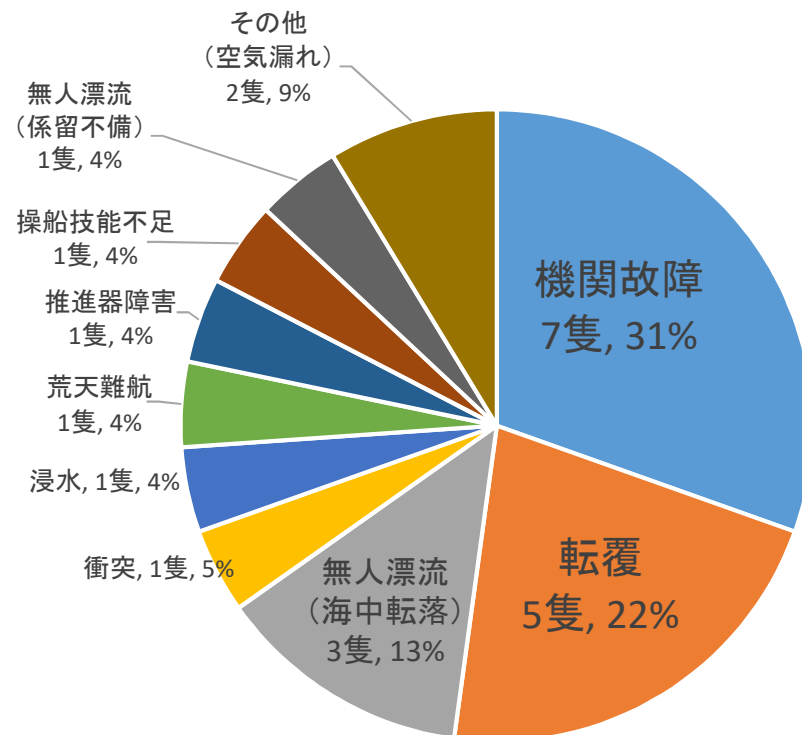
ミニボート海難発生状況(年別、事故種類別)

- ミニボートによる海難隻数は23隻で、前年比で9隻増加し、過去5年と比較しても、最も多く発生している。
- ミニボートによる船舶事故隻数は17隻、インシデントは6隻である。

ミニボート海難隻数の推移【表1-5】



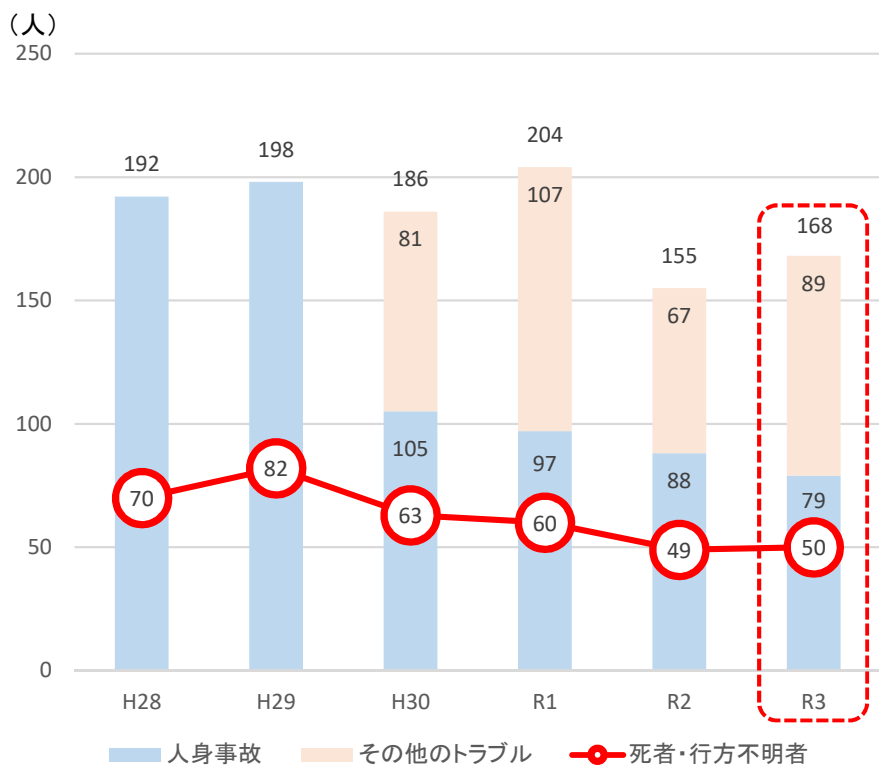
事故種類別(R3ミニボート内訳)【表1-6】



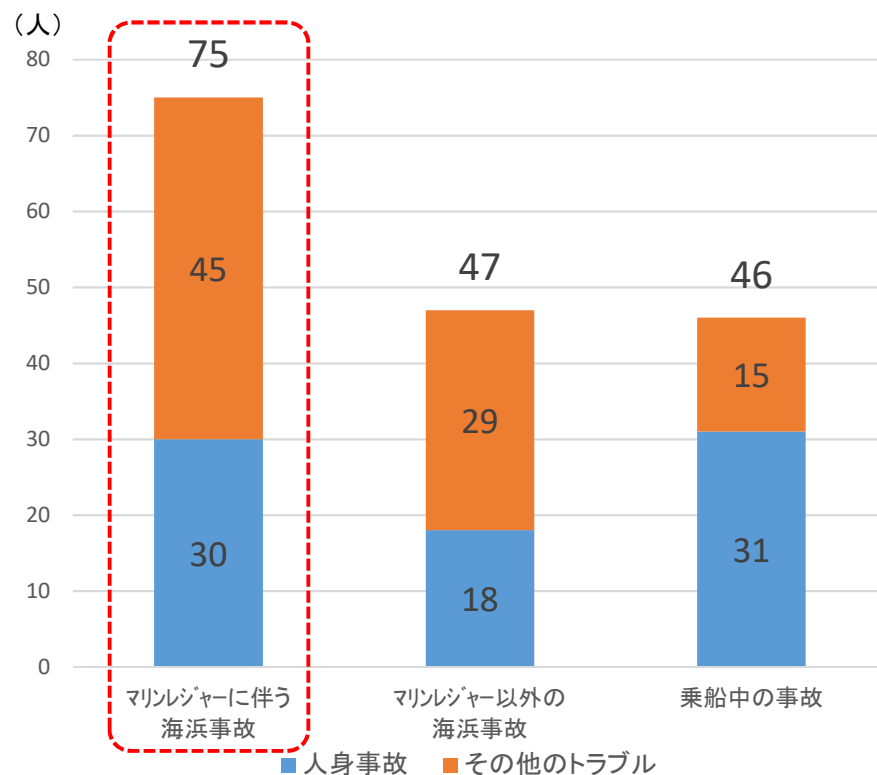
人身海難発生状況(年別、事故区分別)

- 人身海難は168人で、内訳は人身事故79人、その他の人身に係るトラブルは89人であった。
- 人身海難人数は、前年比で13人増、過去5年間の平均より低い状況となった。
- 令和3年中に発生した人身海難は、マリンレジャーに伴う海浜事故が最も多い。
- マリンレジャーに伴う海浜事故のうち、遊泳中の事故は前年比で11人減少した。また、釣り中の事故は前年比で1人減少した。

人身海難人数と死者・行方不明者数の推移【表2-1】



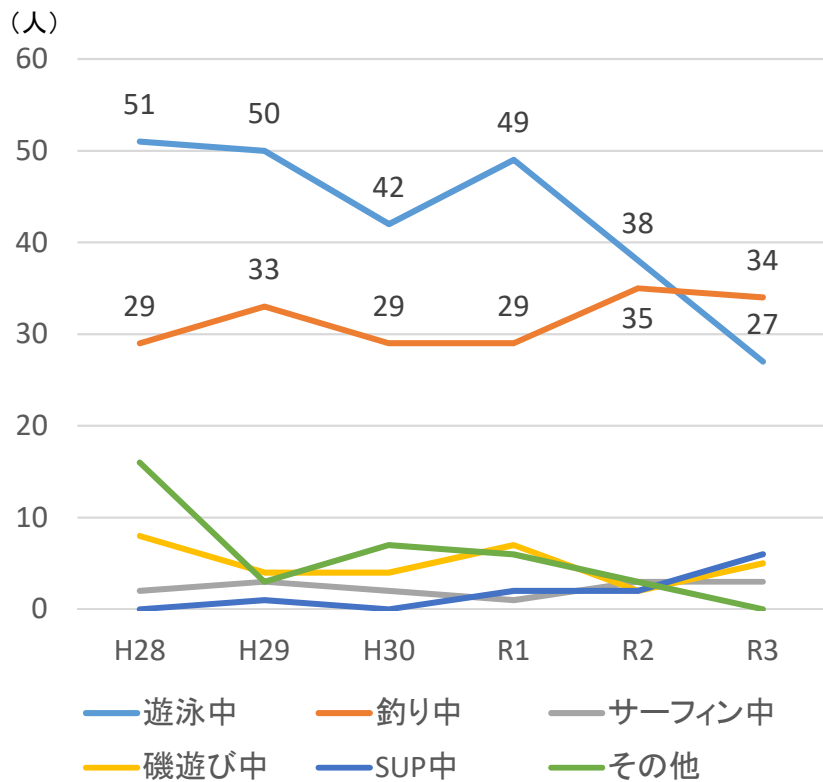
事故区分別(R3内訳)【表2-2】



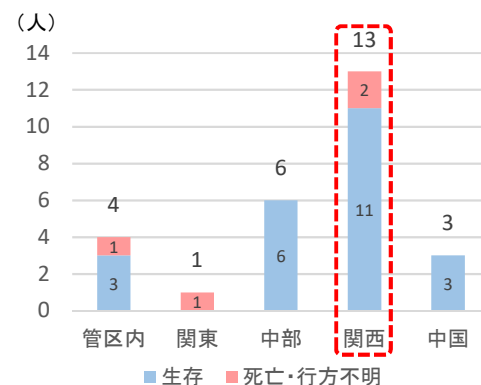
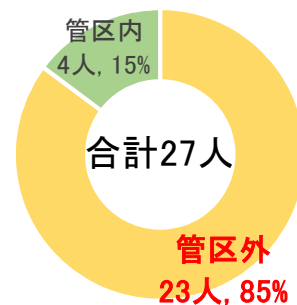
人身海難発生状況(マリンレジャーに伴う海浜事故、年別、居住地別)

- マリンレジャーに伴う海浜事故のうち、大きな割合を占めるのが遊泳中又は釣り中の海難であった。
- 遊泳中の事故者は約8割が管区外居住者によるものであり、特に関西地方(大阪府、兵庫県、奈良県、京都府南部)からの来訪者による事故が多かった。
- 釣り中の事故者は約7割が管区外居住者によるものであり、こちらも特に関西地方からの来訪者による事故が多かった。

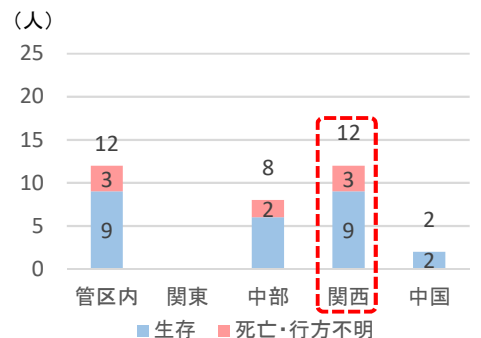
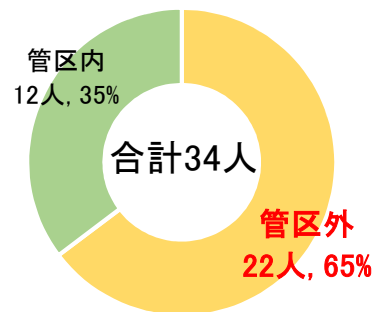
マリンレジャーに伴う海浜事故の推移【表2-3】



遊泳中事故者居住地別発生状況(R3内訳)【表2-4】

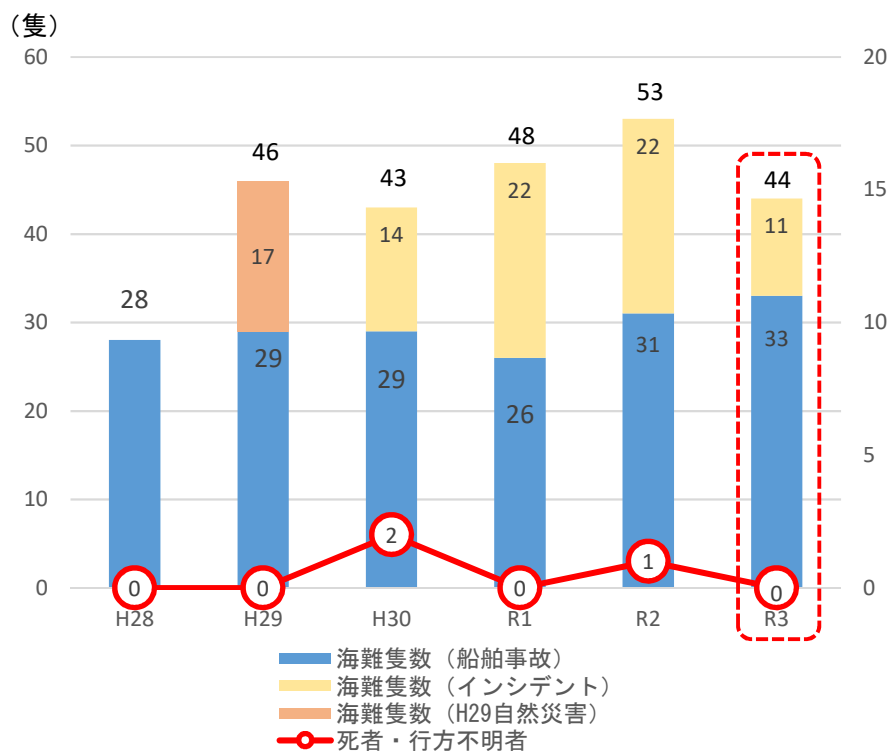


釣り中事故者居住地別発生状況(R3内訳)

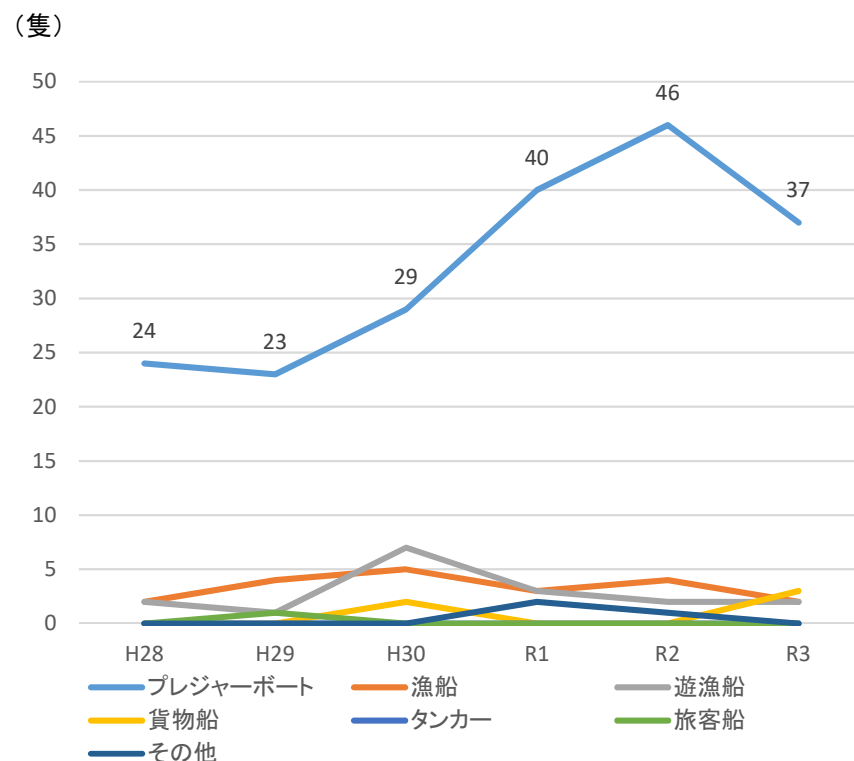


- 船舶海難は44隻で、内訳は船舶事故が33隻(うち民間救助機関による救助隻数9隻)、インシデントが11隻(うち民間救助機関による救助隻数4隻)であった。
- 船舶海難に伴う死者・行方不明者の発生はなかった。
- 船種別では、プレジャーボートが最も多く(約8割)なっている。

海難隻数と死者・行方不明者の推移【表1-1】



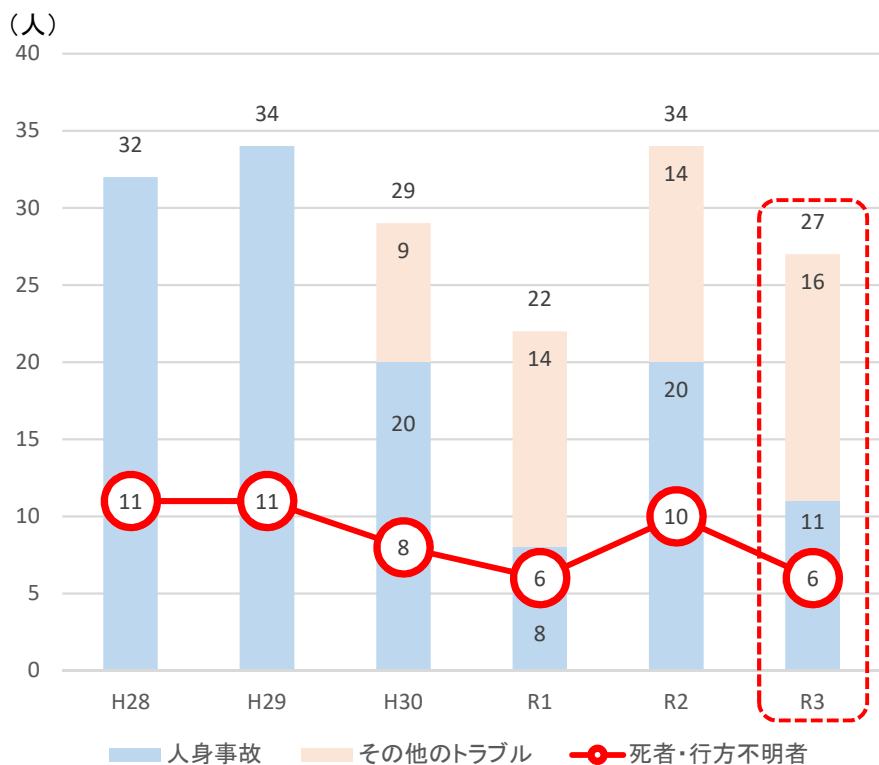
船種別海難隻数の推移【表1-2】



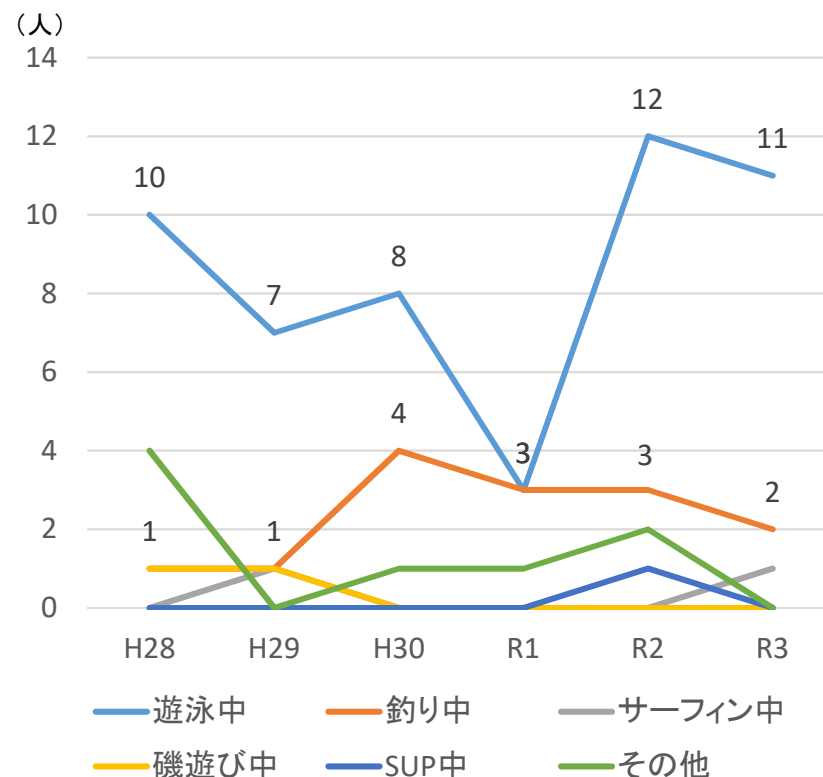
人身海難発生状況(京都府、年別、マリレジャーに伴う海浜事故)

- 人身海難は27人で、内訳は人身事故11人、その他の人身に係るトラブルは16人であった。
- 人身海難人数は、前年比で7人減、過去5年間の平均より低い状況となった。
- マリレジャーに伴う海浜事故のうち、遊泳中の事故は前年比で1人減少した。また、釣り中の事故も前年比で1人減少した。

人身海難人数と死者・行方不明者数の推移【表2-1】



マリレジャーに伴う海浜事故の推移【表2-2】



第1位 学生等がコロナに感染！感染防止を徹底！ (8月13日)

多数の学生が夏季休暇期間中に帰省先において感染が判明したため、帰校前・帰校後のPCR検査等の感染拡大防止対策を強化しました。



第2位 五森祭を2年ぶりに開催(7月3日、4日)

「70周年の感謝を込めて」を合言葉に2年ぶりに五森祭を開催し、カッターレースでは、学校長もクルーとして参加した平均年齢48歳のGT(グレートティーチャーズ)が3位入賞と大健闘、フィナーレでは開校70周年を記念した人文字を学生・教職員一体となって作成した。



第3位 艇庫兼総合実習棟完成・運用開始(4月1日)

艇庫を兼ねた総合実習棟が完成し、3月29日近畿地方整備局京都営繕事務所から、当校へ引き渡しを受け、4月1日から運用を開始した。



第4位 開校70周年記念切手を作成 (9月16日)

開校70周年の記念事業の一つとして「開校70周年記念オリジナルフレーム切手」を舞鶴市内の郵便局に作成を依頼した。



第5位 初の自家用操縦士実地試験 全員合格 合格率100% (9月28日)(北九州センター)

飛行機基礎課程第1期生は、およそ1年半の研修を経て自家用操縦士の国家試験を受験し、見事全員合格を勝ち取った。現在の合格率は100%



第6位 令和3年度遠泳訓練 過去最高の完泳率を達成 (7月20日、21日)

学生528名(73名)が遠泳訓練に挑み目標の3海里以上を完泳した。完泳率は過去最高の99.24%でした。



第7位 練習船こじま、海上保安学校に初入港(5月11日)

練習船こじまが、海上保安学校に初入港し、入港時には海上保安学校幹部、学校学生、学生音楽隊による出迎えを実施した。



第8位 開校70周年記念感謝状贈呈式(7月2日)

開校70周年を迎えたことから、日頃から、学校教育及び校務運営にご協力及びご支援いただいている計29の個人、団体に感謝状を贈呈した。



第9位 海上保安学校宮城分校を全国ネットで紹介(1月22日)(宮城)

全国放送において、芸能人の王林さんが来校して取材を行い、宮城分校で行われている研修や訓練の状況を紹介した。



第10位 宮城分校修了者2000人記念イベント開催(7月21日)(宮城)

宮城分校における修了者が延べ2000人に達したことから、研修生デザインのパスケースを作成するとともに、記念イベントとして分校長による訓示と記念撮影を実施



第10位 感染防止対策のため2回に分けて卒業式を挙行(10月1日)

新型コロナウイルス感染防止のため、10月期の卒業式を分散して実施した。海上保安庁長官からの訓示をライブ中継し、10月1日に主計コース58期52名の卒業式を挙行した。

